

忘れてない？

場（田舎 × 集）＝ 笑

Field (Countryside x Gathering) = Laugh



「つまらない」を「面白い」に変える。

僕が八頭町に戻ったきっかけは、友人のある言葉でした。

「お前は東京に戻っていいよな、俺らはつまらない毎日がまた始まるんだ」
東京でグラフィックデザインとして働いていた20代の頃、地元に戻るたびそんなことを言

うんです。それを聞くのが嫌で、嫌で（笑）。
自分たちで面白くしようぜって。そうして仲間と立ち上げたのが「トリクミ」です。

ある日、地元のおっちゃんから「隼駅前の廃施設で地域を盛り上げてくれないか」と言われまして。やるなら飲食店だと思っただけ、さすがにこんな田舎じゃ無理だろ

うと正直断ろうと思ったんです（笑）。その時、地元の同級生一人が急に「俺が会社を辞めてでもやる」って、覚悟を決めた仲間の一言から「つまらない」毎日が始まりました。

「場づくりでコミュニティを再構築する」

言い出して、びっくりしたけど、逆に嬉しかったですね。それで飲食店経営を始めることにし、翌年に法人化をしました。この時に作った「HOME 8823（はやぶさ）」は、地域の人も入れるような「場所」を、まさにそんな指し、今場所にな

後、ゆっくりこの地域を楽しんでもらいたくて、古民家を改装してゲストハウス「BASE 8823」を作り、少しずつ

て、笑顔が生まれて……。カルチャーが生まれる……。りたいと思っています。

INTERESTING

その代表的な例が、少子化で統廃合となった旧隼小学校を使い、カフェやシェアオフィスなどの複合施設として生まれ変わった「隼Lab.（ラボ）」です。1階のカフェは若者や親子連れが多く訪れ、多目的スペースは地元の年配の方々が体操教室などで使い、シェアオフィスは14部屋が満室で、ラウンドに新たな部屋を造るほど利用してもらっています。

「こ」は、0歳から100歳までのいろんな年代、さらに職業や住んでいる地域が違ふ多様な人たちが集う場所。みんながこの「場」を共有することで、互いの価値観や考え方が緩やかに、に協力できる関係が少しずつできると思っています。

隼Lab.には「日本の未来のモデルになる田舎をつくらう」という目標があります。それはどういふことかと考えてきましたが、「こ」でみんなが集い、交わる姿を見てそれは「コミュニティの再編」だとわかりました。これまでは住んでいるという属性が色濃かったけど、地域通の趣味があるとか、その人の性格で「コミュニティ」ができていくと

これからの地方、そしてそこで働く人びと

思います。人口が増えない時代に、増えていた時代と同じやり方は通用しません。いびつな「人取り合戦」のようなことではなく、住んでいる人やそこに関わる人の満足度、心の豊かさをどう作っていくかが大切になると思っています。

だけ。これまでは場づくりをしてきましたが、今はデザイン事業部にも力を入れているところ。モノやコンテンツの見え方を変えるお手伝いをしたくて、鳥取市にある一枚板の家具のブランドディングを手がけたりしています。少し角度を変えて魅力のある素材は、まだまだたくさんあると思うんです。

僕らの会社は、この1〜2年で若い世代の求人心算が増えていきます。特にUーJですけど、話をしてみても、彼らはトリクミのメンバーが楽しそうに働いて見えていたり、面白そうだなと思ってくれたりしています。地元の企業を知らない、面白くなさそうと思っいる人が多いなら、まずそれを伝えていきな。ま生とか、地域の活性化とか、そういう言葉もありますが、今のトリクミのメンバーがあと100人いなら、その町はきっと楽しい町に住む僕らの、地方を見る目は大きく変わっている気がします。頭の中にあるのは、そんな未来です。

い』は、自分でつくれるって。

ちょっと角度を変えるだけ



株式会社トリクミ（鳥取県八頭町）
代表取締役 古田琢也

2014年、八頭町で飲食店「HOME8823」をオープンし、翌年法人化。その後も古民家を改装したゲストハウス「BASE8823」の運営や、旧隼小学校を使った複合施設「隼Lab.」の運営にも携わり、同施設や鳥取大丸など飲食店を計5店舗経営。地方を面白くすることを軸に、飲食事業だけでなく、デザイン事業も行い、地域素材のブランドディングも得意としている。



ひとのときを、想う。

